

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470700986
法人名	株式会社 ライフケア
事業所名	うさぎ グループホーム
所在地 (電話番号)	松阪市射和町644-2 (電話) 0598-60-1510
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 1 月 27 日(火)

【情報提供票より】 (H21年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算 4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(1月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	2 名	要介護2			名	
要介護3	2 名	要介護4			1 名	
要介護5	4 名	要支援2			名	
年齢	平均	88.1 歳	最低	79 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中村内科循環器科 小山歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所周囲は田畑があり小高い山々も眺められる自然豊かな中にあり、近くには民家や小学校、寺等がある。近所の方が利用されているデイサービスとの併設型で内部ではよく交流されている。利用者の60%要介護度の高い方であるが、所長を始め職員一丸となって重度化にも生活継続支援に取り組んでいる。又暖かい家庭的な雰囲気の中、人として尊厳を保ちながら、ふれあい多く、安全に生活できるよう理念実践に向け努力している事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①運営推進会議の充実②計画的な職員の育成③災害時の地域協力要請について課題として挙げられていたが、それぞれステップアップへの取り組みが行なわれている。ただ②については、今年度も更に取り組みを期待したい課題として残っている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	自己評価は全員で取り組み意見を出し合っている。日々のケアの見直しの機会となり多くの気づきがある。改善策も全員で検討し、できることから改善しサービス向上につなげている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 事業所の現状報告、ターミナルケアについて、認知症予防についてや地域包括支援センターの役割、高齢者への虐待、身体拘束等について討議されている。次回は内、外評価結果報告、災害時の地域協力要請等について議題提出予定で、出された意見はサービス向上につなげようとしている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年に2回の家族会や運営推進会議への参加時、面会時等、意見、意向、苦情等表出して頂ける機会づくりをしている。出された意見は検討し改善につなげている。外部評価のアンケート結果も家族意見として重要視し、長所は継続し弱点は改善につなげ、サービスの向上を図る努力をしている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、職員が総会に出席したり、地域行事に参加している。日常的にも散歩時の挨拶や、声かけ等交流に努めている。今後も往き来できる関係づくりをめざしている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	①家庭的で温かな雰囲気②生きがい、自立③人間としての尊厳④安全な生活⑤ふれあいを理念として掲げており、ふれあいには地域交流が含まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	居間に理念が掲示されており、よく目につく。又朝のミーティング時に復唱し意識化を図ると共に日々のケアが理念実践になっているかどうか振り返りの機会になっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入、総会に出席したり、地域行事(敬老会)小学校の運動会、文化祭等に参加している。日常的には散歩時の挨拶、声かけ等交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で取り組んでいる。日々のケアの見直しの機会となり、多くの気付きがある。改善策も全員で検討し、できることから改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の運営に苦慮されている面もあるが、回を重ねる毎に地域の方々の出席が増加(連合自治会の為)行政の参加もあり、それぞれの立場での質問や意見、情報提供があり、徐々に内容充実が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の更新手続きの代行等業務を通じて市に向き連携を図っている。運営推進会議の出席もあり、包括支援センター共々連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回うさぎ新聞及び利用者個々の介護記録、金銭管理帳をコピーし送付している。状態変化時には随時電話等で報告し、家族の安心につなげている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に意見、意向等表出しやすい場づくりに努め、出された意見は検討し改善につなげている。外部評価のアンケート結果も重要な家族意見として受け止めサービスの向上につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動、離職を極力減らす努力をしている。異動のある時は新旧スタッフの重なるの時期を設けスライドし、利用者への影響を最小限にするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は年に2回は参加できるよう努めている。研修テーマにより推薦で参加、報告書作成し伝達内容の共有を図っている。内部でも日々のケアを通して学べる機会を作っている。	○	外部への研修参加は積極的に努力されているが、今以上のケアの質向上のためには、事業所内で総ての職員のケア実践の習熟度に応じた計画的、段階的な研修の機会を確保されることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は交流の機会を持つ事ができなかったが、今後はグループホーム連絡協議会の参加等交流の機会が持てるよう計画化していく意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している		家族、本人と何度も話し合い信頼関係の構築に努め安心感を得てもらおう努力をしている。併設のデイサービス利用から馴染みの職員のいる馴染みの環境への穏やかな住み替えとして入居する方が多い。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		重度の利用者が多いため、介護が中心になりがちだが、軽度の方とは家事を協働したり、将棋を楽しんだり、生活の知恵を頂いている。利用者間でも食事用エプロンの着用を助ける等、お互い支え合う関係がみられる。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		入居時の思いや意向の把握はもとより、念頭に「今年はどうして暮らしたい」という思いを書き出している。又、日々の関わり中で対話や観察を通して把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
	15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している		本人、家族の意見、職員の気付き等ケース会議で話し合い計画立案している。身体介護面だけでなく暮らしの視点での課題とケアについても計画され意向や思いが反映されている。
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している		6ヶ月に1回定期的にケース会議で見直している。退院後や身体上の変化、新たなニーズがあった時は随時見直し、ケース検討会議録に記録されている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービス利用者が自宅での生活が限界になった時の受入れ支援や、所長が看護師であることから重度化しても医療処置を行い生活の継続支援を行っており、ターミナルケアも希望に沿って支援していく意向がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から主治医継続の方や協力医医療機関が主治医の方もあり、月に1回は往診又は受診にて健康管理をしている。状態変化のあった時は随時医師連絡する等、適切な対応をしており家族の安心につながっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「ターミナルの指針」が作成されており、家族の指針に基いて説明されている。基本的には受け入れる方針だが、変化する家族の思いや身体状況に応じて話し合い対応していく意向である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に意識してケアにあたっているが、時として不適切な対応がみられた場合は職員間で注意喚起促している。記録の保管も最新の注意を払い事務所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度の方が多いので、基本的な1日の流れに沿う事が多いが趣味等、やりたい時にやれるよう支援している。臥床がちの方や閉じこもりがちの方には、できるだけ規則的な生活パターンが保てるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼり作り、味見、盛り付け、お米研ぎ、後片付け等、持てる力を活かす場を作り協働している。重度の方が多いため介助が必要で共にスタッフが食事を摂る事ができなくなっているが、やさしく声かけしながら楽しく食事ができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日に入浴できるよう支援している。全介助の方も家庭風呂を味わって頂きたい思いから機械浴は使っていない。午後に入浴になっているため夜間の入浴も検討しているが、利用者の身体状況上困難な要素が多い。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	めだかの餌やり、新聞取り、縫い物、歌、おしぼり作り、食事の盛りつけ、味見役、食器拭き等、持てる力をいかした役割を取ることで、その人が主役になれる場面づくりをしている。時には外食、花見、神社参拝等の気晴らし支援もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関での外気浴、散歩は日常的に行われている。買物希望がある時は、支援体制を作り対応している。四季折々の外出行事、ドライブ等できるだけ希望に沿えるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠なし。自動ドアは事故の危険性がある為、手動に変えて対応している。玄関を入るとすぐ居間になっている為見守り易い。居室も施錠されていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度は夜間を想定した訓練を実施している。非常口からの避難通路が砂利になっている為、車椅子の方が移動困難という課題も見つかった。地域の方々の協力依頼については次回の運営推進会議で議題提出予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	胃瘻増設の方2名、むせ込みのある方も見られ、食事形態に配慮し必要量摂取できるよう支援している。バランスの取れた献立で摂取量もチェックし、健康管理されている。水分は食事別で1000ミリリットルを目安に補給に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂で玄関や窓から明るい光が入っている。窓からは山並や田園風景、近隣の家並がみえる。テレビを見たり、廊下の端に置かれたソファで昼寝をしたり、それぞれくつろいでいる。トイレは男女別に作られている。壁には1月の生活状況の写真が飾られシンプルだが家庭的なおだやかさがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全介助の方の居室は、介助できるスペースの確保と安全性に配慮している。自立した方は、使い慣れた寝具やテーブル、テレビ等持ち込み写真や鉢植えの花を飾る等、その人らしい居室作りをされている。		